2024年11月10日（日）第二礼拝「イエス様を自分の王とした人」ヨハネ 19章 14節

今日の本文は、「イエス様を自分の王にしたいくない」と、ユダヤ人たちが宣言した箇所です。人は善悪の知識の木の実を食べ、墮落しました。いのちの木の実であるイエス様を拒み、自分の善悪の基準で物事を判断し、自分の人生を自分で決めて生きることを選んだのです。

第一番目、自分が王となっている人です。「そのころ、イスラエルには王がなく、めいめいが自分の目に正しいと見えることを行っていた。」(士師記 21:25) ヨシュアの死後、民を導く王がいなかったため、人々は自己中心的な生き方をしていました。家族や共同体や国の秩序が崩壊し(無政府状態)、人々は墮落していました。しかしながら、神様は人の直観と良心に働きかけ、ご自身をお知らせになっています。神様の本性は被造物によって知られ、はっきりと認められるのであって、弁解の余地はありません(ローマ 1:20~32)。その神様を知っていながら、神を神としてあがめず、感謝もせず、その無知な心は暗くなりました。そして、その不滅の神の御栄えを偶像に代え、神の真理を偽りと代え、その心の欲望のままに歩んでいます。そして、同性愛やあらゆる悪の行いをし、同時にそれを行う者に心から同意しています。これらは、死後の審判で死罪(永遠の滅び)に当たると聖書は言っています。

第二番目、救いの道は悔い改めです。イエス様は天の御座を捨てて、この地上に来られ、私たちの死罪に当たるその罪の身代わりになり、十字架で死なれました。このことを感謝し、悔い改める時、その罪は赦され、死からいのちへ変わります。そして、聖霊が与えられ、私たちの欲望の行いを止めてくださるのです。「…御霊によって歩みなさい。そうすれば、決して肉の欲望を満足させるようなことはありません。なぜなら、肉の願うことは御霊に逆らい、御霊は肉に逆らうからです。…」(ガラテヤ 5:16~17) 聖霊が、私たちを神様の御心の通りに(御言葉の通りに)歩めるように導いてくださいます。

第三番目、イエス様を自分の王とした人は礼拝者です。礼拝者は神様をあがめ、感謝を捧げる人です。私たちが「…御名があがめられますように。御国が来ますように(イエス様が王として来られますように)。御心が天になるごとく、地にもなりますように。…国と力と栄えとは全て主のものです。」と主の祈りを祈り、「この国の王はイエス様です、家族の王はイエス様です」と宣言していく時、その祈りの通りにイエス様が成してくださいます。

トランプ大統領は襲撃事件の後、「私は主によって生かされました。アメリカが主の御心にかなう国となるように使命を果たします。この国の王はイエス様です。」と言いました。アメリカは、つい最近まで伝道するなら罰金が課され、軍の専属牧師はイエス様の御名で祈ることもできませんでした。しかし、トランプ大統領は聖書通りに公約して、男性と女性の性別だけを認め、トランスジェンダーの運動選手や軍人を認めず、性転換を行う医者や重犯罪として処罰する、LGBTQの教育を廃止する等、方針を打ち出しました。神様は彼を通してアメリカを造りかえておられます。日本でもクリスチャン首相が就任しました。日本もまたリバイバルし、「日本の王はイエス様だ」と宣言する国となることを祈ります。アーメン！